

## 安蘇史談会      事業名 地域文化・歴史等の普及啓発事業（2年目）

【目的】 歴史講座の開催、会報『史談』の発行、水損資料の保全活動への参加、会員自身の郷土史の調査・研究を通じて、郷土史の普及を図り地域住民の文化の向上に寄与することを目的としています。

【事業成果】 第36回「安蘇の風土と歴史講座」を開催し、会報『史談』第36号を発刊しました。また、水損資料保全活動に新たに参加し、さらに会員の個人発表を8回行いました。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため城北地区公民館サークル発表が中止となり、見学会も開催できませんでした。

### ○第36回「安蘇の風土と歴史」講座

新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用、受付時での体温測定、入場人員を定員の半数以下とすることを遵守し、開催しました。受講者総数は、316名でした。

・演題：武士の成立と藤原秀郷

～安蘇の名門武士団・佐野氏のルーツをさぐる～

講師：栃木県立博物館学芸員 山本享史氏



・演題：佐野市の石碑調査

（軍馬碑や道標など）で考えたこと

講師：安蘇史談会 小松原圭一会員

受講者数：101名



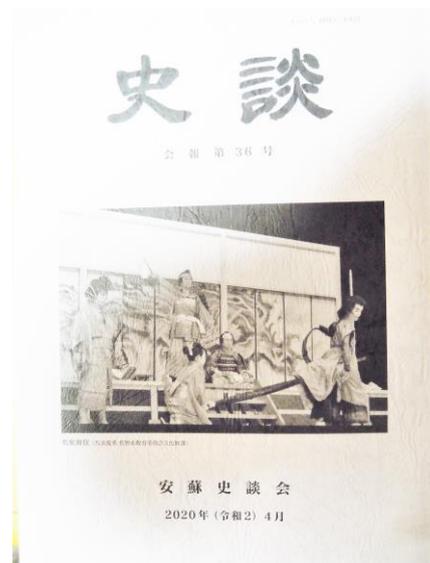
・演題：佐野の狛犬 とちぎの狛犬

講師：佐野市教育委員会文化財課長 山口明良氏

受講者数：87名

### ○会報『史談』第36号の発刊

5月29日に会報『史談』第36号（A4判・163頁）を、600部発刊しました。この会報『史談』は、郷土史の普及を図るため、佐野市内の3図書館、市民活動センターここねっと、城北地区公民館をはじめ栃木県立図書館、足利、栃木、壬生の図書館、国会図書館等に寄贈しています。



### ○水損資料の保全活動への参加

台風等による水損資料の保全のため、令和2年8月7日に「とちぎ歴史資料ネットワーク」が設立され、安蘇史談会も設立と同時に加入しました。6月28日に宇都宮大学で行われた保全作業に、会員5名で参加しました。今後も出来るだけの協力を行う方針です。



### ○例会における会員の個人発表

安蘇史談会では、第2と第4の月曜日、午後6時30分から、城北地区公民館で例会を開いている。令和2年度は、次のような個人発表がありました。

- ・出流山事件における関東取締出役
- ・日本ボーイスカウト運動の父・佐野常羽と唐沢ボーイスカウトの歴史 等